［様式Ｃ－1］

笹川保健財団　地域啓発活動助成

2021 年　8 月 26 日

公益財団法人　笹川保健財団
会長　　喜　多　悦　子　殿

2020 年度地域啓発活動助成
活　動　報　告　書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

医療者養成校における学生教育と脳卒中当事者の就労

活動団体名：　　城西国際大学福祉総合学部理学療法学科

活動者（助成申請者）名：桑江　豊

１．活動の内容と実施経過

脳卒中後遺症のある人やその家族，またその問題に関心のある医療・看護・福祉系学生を対象に，広く精神保健福祉の理解を広め，当事者を対象とする医療・福祉に関わる専門家の教育に役立てる．また地域で安心して暮らしていける社会にむけて実施する．脳卒中当事者でしかできない仕事作りとリハビリテーション専門家の養成校における臨床実習を補完することの両立を実現することを目的として，①当事者講演会，②脳卒中当事者の新しい就労 テレ臨床実習の患者モデルという新しい授業（以下，テレ臨床実習）をおこなった．

脳卒中後，家庭内の役割や仕事の役割が減少してしまうことが問題視されており，退院後の脳卒中者の復職率は平均 44%と言われている．独力で日常生活が過ごせる状態まで回復が図れても，本人の身体状況・家族の支援・職場の理解・社会環境の整備の組み合わせにより，後の就労状況には好転的な状況ではない．ここで逆転の発想を行い，身体に障害を有する脳卒中当事者の身体的特徴を理学療法士学生教育のモデルとして提供することで，当事者でしかできない就労としての可能性が生まれる．

理学療法士養成における「臨床実習」は臨床的経験の蓄積や実用的なスキルの獲得を目指した臨床教育の場であり，リアリティのある環境下（臨床場面）での実用的な理学療法スキル習得を目指している．今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により，臨床実習の中止が相次いでおり，実際の患者を通した学ぶ機会を持てていない．文部科学省からは学内授業にて臨床実習を補完することが提案されているが，学内実習のみでは”実際の患者を通した学び”が十分に得られにくい問題が生じる．入院中の患者にオンライン会議ツールを用いたオンライン授業の協力を得るにしてもインフラ面・安全面の課題があり実現可能性が乏しい．

今回，家庭復帰し日常生活を過ごされている脳卒中当事者の協力を経て，オンライン会議システムを用いてリハビリ施設の脳卒中当事者と大学学生および教員をつなぎ，安全面を配慮しながら問診や検査をはじめとした双方向性の実技実習をオンラインで行なった．

２．活動の成果（アンケート結果）

①当事者講演会

城西国際大学福祉総合学部学生２・３年生を対象に，脳卒中当事者の就労についての体験，工夫についての講話，ディスカッションを行った．Covid-19 感染症対策のため対面ではなくオンライン会議システム ZOOM を用いて実施した．

○当事者の就労支援について、とある一流企業では、物をつくる工場の生産ラインに事故や疾病でハンディキャップを負った方々を、それぞれ適正検査（理学療法士が機能や能力を評価し）し、生産ラインの作業別に個性を活かした配置を行うといった取り組みを行っているようです。障害と言っても、個々それぞれですので、その方々にあった就労支援の在り方はもっと理学療法士が参入するべき時代だと感じます。この度の学生に対する協力もひとつの在り方だと感じます。

○とても素晴らしい取り組みだと思った．このような形で対象者の方の支援に繋がり，学生にとっても利益の大きい方法は中々ないと思うため，今後もぜひ継続できれば良いと思う．

②脳卒中当事者の新しい就労　テレ臨床実習の患者モデル

2020 年 8 月 18 日，8 月 20 日，8 月 26 日，8 月 28 日にテレ臨床実習を実施した．脳卒中当事者４名を症例モデルとし，対象学生 63 名を８グループに分けて行った．実施時間は各グループ 45 分とし，医療面接・理学療法評価を通して，脳卒中当事者の状態把握に努めた．テレ臨床実習終了後，参加した対象学生，学科教員向けにアンケートを実施し，今回のテレ臨床実習の効果判定，就労としての可能性について聴取した．

○患者様にとっても、教育現場としても、それぞれの立場を両岸から見ても、とても有益な取り組みだと思います。患者様にとっては、社会参加や QOL 向上、経済的な支援に繋がりますし、教育現場では学生にとって実際の患者様と接点が持てることで臨床をより具体的にするものとなります。さらには、このような取り組みが今後一般に広まっていくことはノーマライゼーションの観点からも社会的に素晴らしいことだと思います。

○率直な感想として、当事者の方から、口頭での直接的な教育的指導を頂戴できると思っていなかったため、とても有り難かったです。当事者の方は、学生の立場を考慮しつつも、大事なことはしっかりとお伝えいただける教育的な関わりを行ってくれる方というのが印象です（教育者だと思います）。学生への指導として、理学療法士の前に人として大事なことを、患者様の視点からお伝えいただけたことは学生の財産になると思います。 具体的には、他者を尊重する気持ち、目上の方を敬う気持ち、物事の伝え方（表情・言葉遣い・ジェスチャー等）など、多くの教育的な指導を賜りました。このたびは誠にありがとうございました。

○今回のような感染症などの問題が大きく立ちはだかっている中では難しいと思いますが、できれば学内臨床実習と臨地における実習を組み合わせた、ハイブリット臨床実習ができると最良かもしれません。今回のようなテレ臨床実習は、実際の臨地に向かう前の知識や技術の整理に役立つものであるため、臨床実習としての役割より事前学習として用いたほうが有用であると考えます。また、今後の臨床実習の在り方としてのテレ臨床実習では、画像やその画像と一体となったダミー人形など、バーチャルリアリティーの活用などができると事前学習だけでは終わらないと思います。この進化があると実際の臨床実習まで活用を進めることが出来ると思います。現実問題として、AI の活用や５G の出現があります。これらがさらに進化することで、学生にとって有用で実際の臨床場面でも充分活用できる知識や技術を獲得できるバーチャル臨床実習も夢ではないと考えます。

当事者の感想

○当事者は、人生が 180 度変わってしまい社会と関わる事が圧倒的に減り、世の中のお荷物ではないかと考えてしまいがちです。しかし、「当事者にしかわからない事」や「当事者しかできない事」をお伝えする事は”当事者しかできない事”です。

「当事者である」事自体がこれからの若者の未来にお役に立てる事にとてもやりがいを感じました。その上、報酬をいただく事ができ、「仕事」意識が芽生え生きる気力に繋がると思いました。

きちんと仕事としてこういった機会が増える事は当事者の生きがいにも繋がると思いますので、今後も広が

っていく事を期待しております。

○障害を持ってからの就労は大変なことで、以前のようにはいかず希望する仕事ではないことも多々あります。迷惑掛けないか、負担にならないかと考え仕事就くことを躊躇してしまいます。しかし今回のように、私達でしか出来ない、体験を話すことで誰かのお役に立てると思える、報酬を得られるのは本当に嬉しいことで、自己信頼の回復にも繋がり何事にも諦めずチャレンジ出来る気持ちになれました。
それが、仕事になるなら未来に希望が持てます

図　新しい就労の形　テレ臨床実習の１風景

３．今後の課題

学生、当事者の方もどちらも利益のある講習会・実習であり，実施自体のメリットは大きい．これまで

学生に見てもらうのは嫌だという患者様も一定数いる中で、このような報酬制度があることでどちらにもメリットが生じて解決の糸口になる.
しかしながら，今回の活動に対して，大学内での非常勤講師と同等の対価基準を設定していたため，大学内での活動としては適正であるが、脳卒中当事者の方の一般的な労働対価がわからないため比較ができず、適正か否かの判断が難しい.
　また，今回の形式の就労に関しては事前の準備が重要であり，インフラ整備・当事者への保険・リスク発生時の対応方法のルール可など，細部に渡る配慮が必要である.

４．今後の成果の発表予定
　全国リハビリテーション学校協会　第 34 回教育研究大会・教員研修会